

【解説】 発達障害のある方の 就業実態調査 2022年度版

2023/3/24

筑波大学人間系准教授 佐々木銀河

E-mail : sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp



自己紹介

専門

- 発達障害、自閉スペクトラム症、障害学生支援
- 応用行動分析、支援技術 (Assistive Technology : AT)

経歴

- 筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局 (BHE) 業務推進マネージャー
- 「発達障害学生支援 (RADD) プロジェクト」専門アドバイザー
- 筑波大学に在籍する発達障害の診断または傾向のある学生への相談・支援、障害学生支援のマネジメント業務等を兼務
- 学外委員：独立行政法人日本学生支援機構「障害学生に関する紛争の防止・解決等事例集」協力者

主な研究テーマ

- 児童福祉施設職員に対する組織行動マネジメント
- 知的・発達障害のある人を支える支援技術の開発・実装
- 発達障害の診断または傾向のある大学生の修学支援



これまでの就業実態調査

これまで：Kaienさんによる実施

- <https://www.kaien-lab.com/tag/%E5%B0%B1%E6%A5%AD%E5%AE%9F%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB/>
- 2017年度～2021年度（2021年度：1072名）

今年度は筑波大学とKaienさんの共同研究で実施

- 大学が協働することで
 - 発達障害のある方の就業実態を学術的により精緻に調査できる
 - 大学を基点にすることで、競合関係にあるような多くの事業所とも協力した実態調査ができる など
- 調査項目の設計などを協働して実施→筑波大学で分析 **（速報値）**
 - **公益性が高く、速やかに示した方が良いような結果はWEB公開を予定 ※今回**
 - 査読など学術的により精緻な検証が必要な内容は学会発表や論文投稿により学術的根拠（エビデンス）を示せるようにする（発表までは非公開）



調査計画

調査期間：2022年12月27日～2023年2月7日

調査方法：WEB調査（Google Form）

調査依頼方法

- 筑波大学から就労支援関係の各事業所に機縁法で依頼
- KaienからWEBでの周知および自事業関係各所への依頼

調査内容の設計

1. 筑波大学で原案を作成
 - 特定の事業所に特化した項目はなるべく取り除いた
 - 心理尺度についてはアテンションチェックを加えた
2. Kaien従業員・利用者等に予備調査を実施し、質問項目を修正
3. 筑波大学人間系研究倫理委員会の審査・承認を得て実施



調査計画

調査目的

- 障害の開示や就労移行支援など福祉サービス利用、その他の要因などと職場における職務満足度の関連を明らかにする
 - 今回の公開内容
- 仕事に関連して必要とされるスキルを評価する指標を作成する
 - 学術的研究として学会発表や論文投稿を予定（現時点で非公開）

対象者

1. 発達障害の診断や傾向があり、現在または過去に就業した経験のある18歳以上の方
2. 発達障害の診断や傾向があり、就労移行支援や自立訓練（生活訓練）を利用した経験のある18歳以上の方
 - 診断と傾向、就業者と未就業者は分けて分析



調査項目

A：フェイスシート

- 年齢、性別、居住地、最終学歴、障害者手帳の有無

B：発達障害の状況

- 発達障害の診断や傾向の有無、診断や傾向の名称、診断や傾向が判明した年齢とタイミング、自分で特性に気づいた年齢、他の精神疾患

C：就業の状況

- 就業の有無、雇用枠や立場、仕事開始年齢、転職歴、業種、業務内容、1週間あたりの勤務時間、年収、発達障害の判明と就労時期の関連、職場への開示状況とタイミングや範囲、仕事上の合理的配慮
- 職務満足度（森田，2006：ミネソタ式職務満足感尺度の日本語短縮版＋定着志向）

D：ソフトスキル関連項目

E：福祉サービスの利用

- 就労移行支援の利用の有無、開始年齢とタイミング、利用期間、事業所名、利用満足度とその理由、利用終了後の状況
- 放課後等デイサービスなどの療育や自立訓練（生活訓練）も同様



調査項目・有効回答数

ミネソタ式職務満足度(F1-F4)+定着志向

- F1_自己の貢献や活動 : 自分の仕事や能力で貢献できている、など
- F2_他者の評価や処遇 : 職場環境が適切、社会的承認がある、など
- F3_上司の能力と態度 : 上司の判断力や部下への扱いは適切、など
- F4_仕事における裁量度 : 自分自身で仕事上の判断ができる、など
- 定着志向 : できる限り、この会社にいたい、など

有効回答数

- 全回答データ1154件のうち、以下を除いた1113件（人）
 - 研究データ利用への同意がない10件
 - 入力事項の重複が見られ同一人物と推測される25件
 - 対象者条件を満たさないもの（発達障害なし、年齢18歳未満）2件



記述統計：回答者の属性（全数）

性別		人数 (%)	
男性	539	(48.4%)	
女性	551	(49.5%)	
その他	23	(2.1%)	

地域		人数 (%)	
都市部	909	(81.7%)	
地方	204	(18.3%)	

最終学歴		人数 (%)	
高卒相当	157	(14.1%)	
専門学校・短大・高専	182	(16.4%)	
大卒以上	757	(68.0%)	
その他	17	(1.5%)	

発達障害の医学的診断		人数 (%)	
診断あり	1000	(89.8%)	
診断なし+傾向の指摘	113	(10.2%)	

障害者手帳		人数 (%)	
精神障害者保健福祉手帳	820	(73.7%)	
療育手帳、身体障害者手帳	34	(3.0%)	
障害者手帳所持なし	252	(22.6%)	
その他	7	(0.6%)	

診断を受けたタイミング		人数 (%)	
就学前・初中等教育段階	162	(16.3%)	
高等教育段階	136	(13.6%)	
就業中	395	(39.5%)	
就業して離職後	261	(26.1%)	
その他	45	(4.0%)	

精神疾患の併存		人数 (%)	
精神疾患あり	671	(60.3%)	
なし	441	(39.7%)	

現在の就労状況		人数 (%)	
現在就業中	719	(64.6%)	
過去に就業経験+失業・無職	305	(27.4%)	
就業経験なし	89	(8.0%)	



記述統計：就労状況（発達障害診断あり+就業中のみ）

雇用形態	人数 (%)
正社員	294 (45.3%)
契約社員(月給制)	151 (23.3%)
パート・アルバイト(時給制)	139 (21.4%)
個人事業主・フリーランス	31 (4.8%)
その他	34 (5.2%)

雇用枠	人数 (%)
一般枠(個人事業主含む)	269 (41.4%)
障害者枠	346 (53.3%)
その他	34 (5.2%)

発達障害診断のタイミング	人数 (%)
現在の職場で就業前	553 (85.2%)
現在の職場で就業している時	96 (14.8%)

発達障害の開示	人数 (%)
入社前に開示	367 (56.5%)
入社した後に開示	107 (16.5%)
開示していない	154 (23.7%)
その他	21 (3.2%)

業種（上位5件）	人数 (%)
情報通信業	120 (18.5%)
その他	78 (12.0%)
製造業	68 (10.5%)
医療・福祉	59 (9.1%)
卸売業・小売業	56 (8.6%)

業務内容（上位5件）	人数 (%)
清掃	212 (32.7%)
情報システム	84 (12.9%)
総務	73 (11.2%)
接客/営業	54 (8.3%)
軽作業	51 (7.9%)

職場での合理的配慮	人数 (%)
合理的配慮あり	379 (58.4%)
なし	270 (41.6%)

就労移行支援の利用	人数 (%)
就労移行支援の利用あり	301 (53.6%)
なし	348 (46.4%)



記述統計：就労状況（発達障害診断あり+就業中のみ）

項目	件数(N)	平均値(標準偏差)		範囲
年齢	649	36.33 歳	(9.04)	18 - 64
転職回数	647	3.39 回	(4.03)	0 - 69
1週間あたりの勤務時間	645	34.03 時間	(13.67)	0 - 84
年収	643	291.36 万円	(0.36)	0 - 3000
職務満足度_F1_自己の貢献や活動	641	23.68 点	(5.77)	6 - 36
職務満足度_F2_他者の評価や処遇		14.78 点	(4.39)	4 - 24
職務満足度_F3_上司の能力と態度		8.38 点	(2.72)	2 - 12
職務満足度_F4_仕事における裁量度		7.86 点	(2.56)	2 - 12
職務満足度_合計点		54.69 点	(12.54)	14 - 84
定着志向		14.72 点	(5.67)	4 - 24
就労移行支援_利用開始年齢	288	31.48 歳	(8.33)	18 - 56
就労移行支援_利用期間	279	11.82 ヶ月	(8.73)	1 - 76
発達障害診断からの経過年数	609	7.93 年	(6.09)	0 - 32
仕事開始からの経過年数(勤続年数)	634	4.68 年	(5.91)	0 - 38



Q & A形式でみる 発達障害のある方の就労



今回の報告の留意点

留意点

- 今回、調査にご回答いただいた集団の概要を表しています
 - 調査に回答していない方（言語が苦手な方など）には言及できません
 - もし回答内容に間違いがあっても、その内容を反映しています
- 結果は、各質問項目の統計的な関係を説明しています
 - 結果には誤差が出てきますので、同じ調査を2回やっても結果が変わることがあります
 - 全員がこの結果の通りではなく、確率的に高い、という意味です
 - 「●だから▲に必ずなる」というように、絶対にそうである、というわけではありません。例外はもちろんあります
 - 個人差を十分に考慮できていないわけではではありません
 - 調査されていない別の要因が複雑にからみあっている場合もあります



Q1：性差(男女等)はあるか？

A1

- 男性の方が学歴、年収等では高い位置にありました
- 就労移行支援や障害者枠の利用も男性が多かったです
- 女性の方が職場で発達障害のことを知られていない割合が多かったです
- また、女性の方が働いている時に発達障害の診断を受けている割合が多かったです



Q1：性差(男女等)はあるか？

項目	人数(構成比)	平均値(標準偏差)
男性 - 専門学校・短大・高専卒	50 (10.1%)	
女性 - 専門学校・短大・高専卒	101 (21.0%)	
男性 - 大卒以上	368 (74.0%)	
女性 - 大卒以上	304 (63.2%)	
男性 - 年収	316	311.02 万円 (235.65)
女性 - 年収	310	291.36 万円 (171.94)
男性 - 障害者枠	217 (48.8%)	
女性 - 障害者枠	168 (37.0%)	
男性 - 就労移行支援利用あり	287 (57.7%)	
女性 - 就労移行支援利用あり	183 (38.0%)	
男性 - 職場の人は誰も発達障害のことを知らない	126 (13.7%)	
女性 - 職場の人は誰も発達障害のことを知らない	166 (18.0%)	
男性 - 就業中に発達障害の診断	176 (35.4%)	
女性 - 就業中に発達障害の診断	210 (43.7%)	



Q2：地域の差はあるか？

A2

- 国勢調査を参考に、東京圏（1都3県）、大阪圏（2府2県）、名古屋圏（3県）を都市部、そのほかを地方として分析
- 都市部の方が、精神障害者保健福祉手帳所持者が多く、障害者枠で障害開示して就労している人が多かったです
- 就労移行支援や合理的配慮を受けている人も多かったです
- 働いている人の年収および職務満足度も総じて都市部は高かったです
- 地方では、一般枠で、飲食店や公務、生産/製造での仕事が多く、働いている時に発達障害の診断を受ける人が多かったです
- 診断から特性自認までの年数もかかる傾向にありました



Q2：地域の差はあるか？

項目	人数(構成比)	平均値(標準偏差)	
都市部 - 精神障害者保健福祉手帳所持	647 (79.4%)		
地方 - 精神障害者保健福祉手帳所持	132 (71.4%)		
都市部 - 障害者枠で開示	322 (48.1%)		
地方 - 障害者枠で開示	55 (35.3%)		
都市部 - 就労移行支援利用あり	424 (52.0%)		
地方 - 就労移行支援利用あり	58 (31.4%)		
都市部 - 合理的配慮あり	364 (48.7%)		
地方 - 合理的配慮あり	67 (38.5%)		
都市部 - 年収	528	299.33 万円	(208.52)
地方 - 年収	115	254.74 万円	(194.69)
都市部 - 職務満足度_合計点	527	55.73 点	(12.33)
地方 - 職務満足度_合計点	114	49.89 点	(12.45)
都市部 - 診断から特性自認までの年数	444	2.39 年	(6.53)
地方 - 診断から特性自認までの年数	94	3.97 年	(7.33)



Q3：二次障害(精神疾患)の有無で差はあるか？

A3

- 二次障害のある人は女性が多かったです
- 過去に就業経験があるものの失業・無職の方が多かったです
- 二次障害がある人の方が年齢や転職回数も高く、就労移行支援を利用して働いていない人が多かったです
- また、職務満足度では二次障害のある人の方が「F2_他者の評価や処遇」が低かったです



Q3：二次障害(精神疾患)の有無で差はあるか？

項目	人数(構成比)	平均値(標準偏差)
精神疾患あり - 女性	335 (55.6%)	
精神疾患なし - 女性	145 (36.6%)	
精神疾患あり - 過去に就業経験+失業・無職	189 (31.3%)	
精神疾患なし - 過去に就業経験+失業・無職	83 (21.0%)	
精神疾患あり - 年齢	382	37.59 歳 (9.09)
精神疾患なし - 年齢	266	34.56 歳 (8.69)
精神疾患あり - 転職回数	381	3.98 回 (5.89)
精神疾患なし - 転職回数	265	2.56 回 (3.25)
精神疾患あり - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	377	14.39 点 (4.44)
精神疾患なし - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	263	15.34 点 (4.28)
精神疾患あり - 就労移行支援利用終了後、働かずに別の活動	19 (6.7%)	
精神疾患なし - 就労移行支援利用終了後、働かずに別の活動	4 (2.0%)	
精神疾患あり - 放課後等デイサービスなどの療育利用あり	18 (3.0%)	
精神疾患なし - 放課後等デイサービスなどの療育利用あり	26 (6.6%)	



Q4：診断の時期で、その後の人生に変化はあるか？

A4

- 初中等教育までに診断を受けている人
 - 男性や高卒、療育手帳所持者が多かったです
 - 業種や職務内容は、農林・林業や運輸・郵便、軽作業に多かったです
- 就業前（教育段階）に診断を受けている人
 - 障害者枠が多く、合理的配慮を受けていて、精神疾患なしが多かったです
 - 就業後に診断を受けた人よりも「F2_他者の評価や処遇」が高かったです
- 就業中に診断を受けている人
 - 女性、専門学校・短大・高専卒が多く、手帳未所持が多かったです
 - 一方で、年収は高かったです



Q4：診断の時期で、その後の人生に変化はあるか？

項目	人数(構成比)
男性 - 初中等教育段階で診断	105 (21.1%)
女性 - 初中等教育段階で診断	57 (11.9%)
高校卒業 - 初中等教育段階で診断	45 (31.7%)
大卒以上 - 初中等教育段階で診断	95 (13.8%)
療育手帳あり - 初中等教育段階で診断	21 (80.8%)
精神障害者保健福祉手帳あり - 初中等教育段階で診断	111 (14.2%)
障害者枠 - 高等教育段階で診断	63 (16.0%)
一般枠 - 高等教育段階で診断	44 (9.1%)
合理的配慮あり - 高等教育段階で診断	67 (15.5%)
合理的配慮なし - 高等教育段階で診断	45 (9.2%)
精神疾患あり - 高等教育段階で診断	67 (11.1%)
精神疾患なし - 高等教育段階で診断	69 (17.4%)



Q4：診断の時期で、その後の人生に変化はあるか？

項目	人数(構成比)	平均値(標準偏差)
高等教育段階で診断 - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	91	16.35 点 (3.77)
就業中に診断 - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	292	14.25 点 (4.30)
男性 - 就業中に診断	176 (35.4%)	
女性 - 就業中に診断	210 (43.7%)	
専門学校・短大・高専卒 - 就業中に診断	75 (49.0%)	
大卒以上 - 就業中に診断	274 (39.7%)	
精神障害者保健福祉手帳あり - 就業中に診断	298 (38.3%)	
手帳所持なし - 就業中に診断	91 (49.7%)	
高等教育段階で診断 - 年収	92	270.89 万円 (138.75)
就業中に診断 - 年収	293	340.06 万円 (249.79)



Q5：現在就業中と離職者でどんな差があるか？

A5

– 現在就業中の方

- 現在の仕事は、障害者枠+障害開示に多い
- 現在の仕事は、契約社員(月給制)や個人事業主・フリーランスで多い
- 現在の業種は、「情報通信業」「金融業・保険業」「教育学習支援業」で多い
- 現在の業務内容は、「総務」「人事」「清掃」で多い

– 過去に就業経験あり+失業・無職

- ADHD診断のある方、精神疾患のある方に多い
- 離職前の仕事は、一般枠+非開示に多い
- 離職前の仕事は、パート/アルバイト(時給制)が多い
- 離職前の業種は、「製造業」「サービス業」で多い
- 離職前の業務内容は、「接客/営業」「生産/製造」で多い

– 現在就業中の方が、離職者よりも、1週間当たりの勤務時間が短く、年収、職務満足度が高い



Q5：現在就業中と離職者でどんな差があるか？

項目	人数(構成比)	平均値(標準偏差)
現在就業中 - ADHD診断	385 (59.3%)	
離職者 - ADHD診断	175 (64.3%)	
現在就業中 - 精神疾患あり	382 (59.0%)	
離職者 - 精神疾患あり	189 (69.5%)	
現在就業中 - 一般枠非開示	142 (24.0%)	
離職者 - 一般枠非開示	144 (61.3%)	
現在就業中 - パート/アルバイト(時給制)	78 (21.4%)	
離職者 - パート/アルバイト(時給制)	139 (28.7%)	
現在就業中 - 1週間あたりの勤務時間	645	34.03 時間 (13.67)
離職者 - 1週間あたりの勤務時間	272	40.53 時間 (19.55)
現在就業中 - 年収	643	291.36 万円 (206.68)
離職者 - 年収	271	232.94 万円 (142.56)
現在就業中 - 職務満足度_合計点	641	54.69 点 (12.54)
離職者 - 職務満足度_合計点	263	46.28 点 (12.68)



Q6：業務内容と職務満足度の関連は？

A6

- 研究/開発、財務/会計/経理、人事、接客/営業、
- 情報システム、清掃 > 軽作業

項目	人数	平均値(標準偏差)
研究/開発 - 職務満足度_合計点	22	58.36 点 (17.33)
財務/会計/経理 - 職務満足度_合計点	38	58.08 点 (12.38)
人事 - 職務満足度_合計点	37	57.68 点 (12.72)
接客/営業 - 職務満足度_合計点	54	56.06 点 (10.98)
情報システム - 職務満足度_合計点	84	55.68 点 (12.18)
清掃 - 職務満足度_合計点	210	55.47 点 (11.55)
軽作業 - 職務満足度_合計点	49	47.55 点 (14.25)



Q7：障害者枠か一般枠かで差はあるか？

A7

- 職務満足度のうち「F2_他者の評価や処遇」「F3_上司の能力と態度」と「定着志向」において、障害者枠の方が一般枠よりも高かったです
- 「F1_自己の貢献や活動」と「F4_仕事における裁量度」は、障害者枠と一般枠で差はありませんでした
- ただし、障害者枠の方が一般枠より「1週間当たりの勤務時間」および「年収」は低かったです



Q7：障害者枠か一般枠かで差はあるか？

項目	人数	平均値(標準偏差)
一般枠 - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	268	14.27 点 (4.25)
障害者枠 - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	340	15.28 点 (4.47)
一般枠 - 職務満足度_F3_上司の能力と態度	268	7.96 点 (2.83)
障害者枠 - 職務満足度_F3_上司の能力と態度	340	8.75 点 (2.55)
一般枠 - 定着志向	268	13.47 点 (5.73)
障害者枠 - 定着志向	340	15.71 点 (5.38)
一般枠 - 1週間あたりの勤務時間	268	35.98 時間 (14.86)
障害者枠 - 1週間あたりの勤務時間	344	33.22 時間 (12.02)
一般枠 - 年収	265	346.47 万円 (270.36)
障害者枠 - 年収	345	258.35 万円 (127.56)



Q8：障害を開示するかどうかで差はあるか？

A8

- 入社前開示の方が、入社後開示や開示なしと比べて、「F2_他者の評価や処遇」「F3_上司の能力と態度」「定着志向」が高かったです
- 「F1_自己の貢献や活動」や「F4_仕事における裁量度」は障害の開示による影響はありませんでした
- ただし、入社前開示の方が、入社後開示および開示なしと比べて「年収」は低かったです



Q8：障害を開示するかどうかで差はあるか？

項目	人数	平均値(標準偏差)	
入社前開示 - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	362	15.34 点	(4.45)
入社後に開示 - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	105	13.67 点	(4.11)
開示なし - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	154	14.32 点	(4.34)
入社前開示 - 職務満足度_F3_上司の能力と態度	362	8.80 点	(2.54)
入社後に開示 - 職務満足度_F3_上司の能力と態度	105	7.57 点	(3.04)
開示なし - 職務満足度_F3_上司の能力と態度	154	8.01 点	(2.75)
入社前開示 - 定着志向	362	15.66 点	(5.48)
入社後に開示 - 定着志向	105	13.95 点	(5.34)
開示なし - 定着志向	154	12.95 点	(5.82)
入社前開示 - 年収	365	247.55 万円	(131.53)
入社後に開示 - 年収	106	354.67 万円	(223.07)
開示なし - 年収	152	349.68 万円	(297.93)



Q9：雇用形態と開示によって仕事に違いはあるか？

A9

- 一般枠開示では下記の割合が多かったです
 - 「正社員」
 - 「業種_教育学習支援業」「業種_医療・福祉」
 - 「業務内容_生産/製造」
- 障害者枠開示では下記の割合が多かったです
 - 「契約社員」
 - 「業種_金融業、保険業」「業種_不動産業、物品賃貸業」
 - 「業務内容_財務/会計/経理」「業務内容_総務」
 - 「業務内容_人事」「業務内容_軽作業」
- 一般枠非開示では下記の割合が多かったです
 - 「業種_サービス業」
 - 「業務内容_接客/営業」「業務内容_研究/開発」



Q10：就労移行支援の利用による影響はあるか？

A10

- 就労移行支援の利用がある人は「F2_他者の評価や処遇」「F3_上司の能力と態度」「定着志向」における満足度が高かったです
- 「F1_自己の貢献や活動」「F4_仕事における裁量度」では、就労移行支援の利用による差がありませんでした
- ただし、就労移行支援利用者の方が「1週間あたりの勤務時間」および「年収」は低かったです
- いつ就労移行支援を利用するかは影響がないようです
- 就労移行支援利用から1ヶ月以内に働いて今も働き続けている人で、特に職務満足度が高かったです
- 1ヶ月以上経過している人では顕著な差がありませんでした



Q10：就労移行支援の利用による影響はあるか？

項目	人数	平均値(標準偏差)
就労移行支援利用あり - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	295	15.44 点 (4.29)
利用なし - 職務満足度_F2_他者の評価や処遇	346	14.21 点 (4.41)
就労移行支援利用あり - 職務満足度_F3_上司の能力と態度	295	8.75 点 (2.56)
利用なし - 職務満足度_F3_上司の能力と態度	346	8.07 点 (2.81)
就労移行支援利用あり - 定着志向	295	15.68 点 (5.35)
利用なし - 定着志向	346	13.90 点 (5.81)
就労移行支援利用あり - 1週間あたりの勤務時間	298	32.10 時間 (12.73)
利用なし - 1週間あたりの勤務時間	347	35.69 時間 (14.25)
就労移行支援利用あり - 年収	265	249.58 万円 (138.15)
利用なし - 年収	345	327.67 万円 (246.02)
利用終了後1ヶ月以内に働き、今も働いている - 職務満足度_合計	187	56.66点 (11.37)
利用終了後1ヶ月以上経過後働き、今も働いている - 職務満足度_合計	31	55.84点 (13.88)
利用終了後1ヶ月以内に働き、その後、離職・転職 - 職務満足度_合計	69	49.72点 (14.95)



Q11：その他の満足度は何から影響を受けているか？

A11

- 自立訓練（生活訓練）利用者では「F1_自己の貢献や活動」が高かったです
- 「F3_仕事における裁量度」はASDのある人の方が、ASDのない人よりも低いという結果でした
 - ・ただし、今回の裁量度を評価する項目は得点範囲が狭いので、点数の差を検出しにくい可能性があります

項目	人数	平均値(標準偏差)
自立訓練利用あり - 職務満足度_F1_自己の貢献や活動	25	26.16 点 (6.21)
利用なし - 職務満足度_F1_自己の貢献や活動	616	23.58 点 (5.73)
ASDあり - 職務満足度_F4_仕事における裁量度	502	7.74 点 (2.61)
なし - 職務満足度_F4_仕事における裁量度	139	8.44 点 (2.32)



Q12：放デイなどの療育や自立訓練の利用で差はあるか？

A12

－放課後等デイサービス等の療育の利用者

- 高卒、療育手帳所持、知的障害の診断あり、就業経験なしが多かったです
- 一方で、精神疾患なしが多かったです
- 職務満足度等に影響はありませんでした

－自立訓練（生活訓練）の利用者

- 高卒、療育手帳所持、就業経験なしが多かったです
- 自立訓練利用者の方が職務満足度が全体的に高かったです



Q12：放デイなどの療育や自立訓練の利用で差はあるか？

項目	人数(構成比)	平均値(標準偏差)
療育の利用あり - 高校卒業	13 (29.5%)	
なし - 高校卒業	129 (13.5%)	
療育の利用あり - 療育手帳あり	7 (15.9%)	
なし - 療育手帳あり	19 (2.0%)	
療育の利用あり - 知的障害の診断あり	3 (6.8%)	
なし - 知的障害の診断あり	13 (1.4%)	
療育の利用あり - 就業経験なし	17 (38.6%)	
なし - 就業経験なし	62 (6.5%)	
療育の利用あり - 精神疾患なし	26 (59.1%)	
なし - 精神疾患なし	270 (38.7%)	
自立訓練（生活訓練）の利用あり - 職務満足度_合計点	25	59.96 点 (13.80)
自立訓練（生活訓練）の利用なし - 職務満足度_合計点	616	54.48 点 (12.45)



つまり・・・

現在の障害のある方における就業スタイルとして

- 障害者枠の方が、就労移行支援を利用する方が、働く際の処遇に関する満足度や会社への定着志向は高い傾向
- でも、1週間当たりの勤務時間や年収は低い傾向
- 障害を入社前に開示している人の方が、働く際の処遇に関する満足度や会社への定着志向は高い傾向
- でも、クローズ就労や入社後開示の方が年収は高い傾向

課題：障害のある方への就労支援は、個人の満足度にはポジティブに働いているが、社会的待遇は低い状況



就業実態調査に関する意見やコメント（匿名可）



<https://forms.gle/75ifMUbGFYCDcZC96>

※できることとできないことはありますが、できる限り還元したいと思います

